

【報告 5】

令和 6・7 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価等について

【報告 5-1】

令和 6・7 年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価（及び地域公共交通計画の評価結果） 概要（全体）

【報告 5-2】

令和 6・7 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について（通知）

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 (及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

中津川市地域公共交通会議 (中津川市)

平成20年6月4日設置

令和3年6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定

令和4年1月20日 中津川市地域公共交通計画へ移行
(計画期間：平成30年4月～令和9年3月)

令和8年1月 日 令和7年度評価結果送付

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

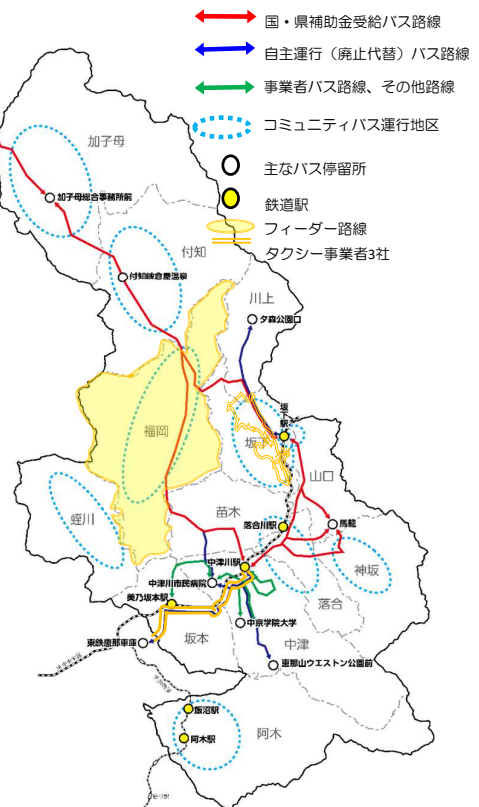
2

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ①利用者の減少で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 人口減少・高齢化(国調△2,313人、高齢化率32.9%)
 - ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
 - ✓ 路線により利用の差が激しい
- ②誰もがわかりやすい公共交通となっていない
 - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③運転手不足で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通計画(2022.1改定)

- 基本方針
 - ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に
- 目標
 - ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
 - ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
 - ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に
- 期間
 - ✓ 2018年度～2026年度までの9年間



目指す姿とは 利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

■ 地域公共交通計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、地域公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、おでかけ情報の発信、インターネットによる経路検索の充実 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2024-2025年度に実施した主な取り組み

★大集合！はたらくのりもの広場

②利用促進 公共交通に親しむ機会を創出！

- 子ども連れの親子をメインターゲットに、バス、タクシーの運転席の乗車体験、写真撮影ができるイベントを実施。
- 公共交通をPRするグッズの配布、事業者による求人募集も行った。

実績

令和6年10月6日（日）に実施
（10月六斎市の開催日）
市内交通事業者（4社）が協力
228家族 684人が来場



今後

アンケートから、「子どもが喜んだ」「今後もやってほしい」という意見が多かった。
イベントの内容や開催場所を検討しながら、
今後も定期的なイベントとしたい。

★落合地区コミュニティバスの利用増！

①定住を支える コミバスに乗ってもらうきっかけに！

- 地域住民が買い物しやすいようにドラッグストア付近に新たにバス停を設置し、令和6年10月1日にルートを再編。
- ルートの再編に合わせ、無料乗車キャンペーンを実施。

実績

R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
24人	41人	45人	29人	38人
R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12
36人	43人	156人	48人	43人

今後

無料乗車キャンペーン中は、試乗する人や団体での利用が多く、前年度比の約3倍以上の利用があった。キャンペーン後も前年同月比で利用者が増加しており、一定の効果があつたと思われる。そのため、他地区でも同様の取組みを拡充していきたい。

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■ 地域公共交通計画における評価指標の考え方

- ✓ 地域公共交通計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）
 - ②住民や来訪者による公共交通利用者を確保することを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 毎年度、評価数値に対する実績の評価、考察を行う。

■ 地域公共交通計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	②住民1人あたりの公共交通年間利用回数
基準年度	2021年度	25.3%	6.7回/人
目標年度	2026年度	25.3%以上	6.7回/人以上
実績【評価】	2024年度	25.5%【達成】	9.6回/人【達成】
	2025年度	24.4%【未達成】	10.6回/人【達成】
参考 ※地域公共交通網形成計画目標値	2016年度	30.6%	8.6回/人
考察		- 沿線地区の高校生数は年々減少傾向にあり、定期購入者数も減少傾向。 - 近年の物価高騰や運賃の値上げ等により家庭への負担が大きくなっているため、補助金額の増額を検討中。	- 観光客が全体的に増加しており、馬籠線の利用者が約4万5千人増加しており観光客利用が増えている。 - 総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線や、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。

■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

区分	(上段) 利用人数、(下段) 達成率			主な考察・備考
	2021(基準)	2024(実績)	2025(実績)	
民間路線バス (補助系統)	253,025 -	339,753 134.3%	368,023 145.4%	○新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用が堅調に戻っており、 利用者数は全体的に増加している 。 ○観光客が全体的に増加しており、 馬籠線の利用者数が約4万5千人増加している 。 ○総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。 ○学生の通学や地元企業への通勤で利用されている路線では、昨年度と横ばい、もしくは増加傾向にある。 △補助対象の坂下線の利用者数が減少傾向にある。
民間路線バス (非補助系統)	154,995 -	226,129 145.9%	241,099 155.6%	
自主運行バス (廃止代替バス)	49,621 -	63,290 127.5%	68,757 138.6%	○小学生や高校生が通学、帰宅に利用できる便を設定した地区（坂下・阿木）では、 学生の利用により 、堅調に推移している。 ○ 買い物がしやすい路線に再編した 落合地区では、再編に合わせ無料乗車キャンペーン及び「おでかけレポートリー」の配布を行ったことで、前月よりも利用者数が増加した。（R7.9:43人⇒R7.10:156人） △通学利用がある地区とない地区では、利用の差が激しい。 × 頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（ 利用者の高齢化 。認知症、施設入所、死亡など）
自主運行バス (コミバス)	19,623 -	23,453 119.5%	25,285 128.9%	
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	35,352 -	57,305 162.1%	64,621 182.8%	○新型コロナウイルス感染症の影響により約68,000人から約35,000人まで利用が減少したが、5類移行後回復しており、 コロナ前の約9割にまで回復 。 ○令和4年度から高校生通学バス補助金の拡大により、阿木地域の定期利用者が増えた。
合計	512,616	709,930	709,930	【参考】住民基本台帳人口（9月末） 2021（基準）76,553人 2024（実績）73,750人（▲3.6%） 2025（実績）72,716人（▲5.2%）

4. 【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

【路線バスの利用増加】

赤字路線を延伸し、利用者数の増加に繋げる

- | | |
|----|---|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> 地域間幹線系統である北恵那バスの坂下線の利用者数が補助要件を下回っている。 中津川駅から馬籠宿への路線バスに観光客が集中している。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者数がこのまま減少していくと補助の対象外となってしまう。 1つの路線に観光客が集中しているため、オーバーツーリズムが発生し、地域住民が利用しづらい状況。 |
| 対応 | <ul style="list-style-type: none"> 競合となる路線を運行している事業者との協議 坂下線を坂下駅から長野県の観光地である妻籠宿まで延伸し、中津川～馬籠宿～妻籠宿の周遊ルートを確保。企画乗車券の販売。 |
| 今後 | <ul style="list-style-type: none"> 新設の路線であるため、利用者数や企画乗車券の販売数を注視し、さらなる利用促進に向けて周知に努めていく。 路線の新設により、坂下線沿線地区の地域住民のバス利用に影響があるか調査が必要になる。 |



【コミュニティバスの利用増加】

地域の実情に合わせてコミバスのルートを再編し、利用者の生活を維持・確保する

- | | |
|----|--|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民が利用しているスーパーマーケットが急遽閉店することを発表。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 今までスーパーマーケットを利用していた地域住民が、コミバスを利用して買い物ができなくなってしまう。 |
| 対応 | <ul style="list-style-type: none"> 運行事業者と協議を行い、閉店直前に地元の商店にバス停を新設した。 |
| 今後 | <ul style="list-style-type: none"> 同地区にドラッグストアが新たにオープンする予定。利用者の生活維持・コミバスの利用者数の増加に繋げるため、柔軟に再編していく。 |

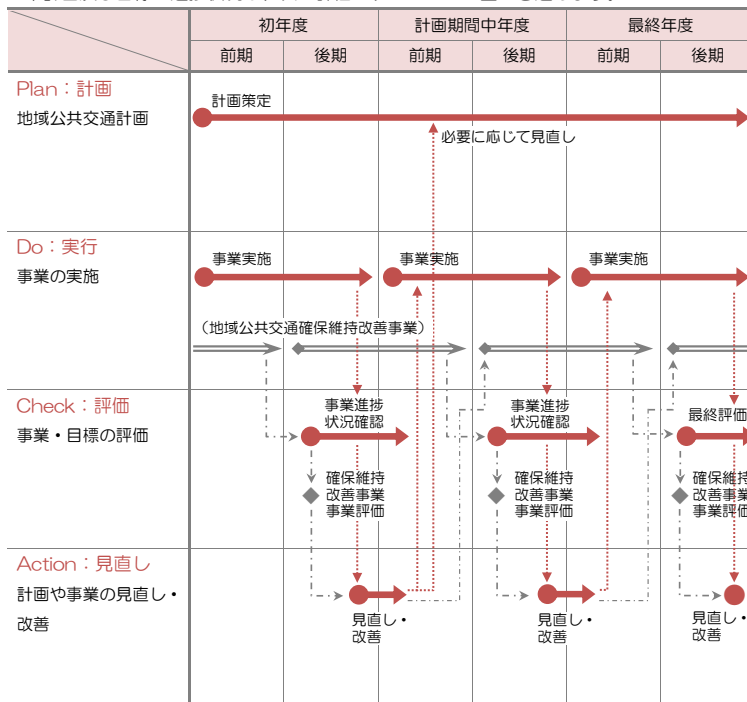
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	・今後も地域の声に耳を傾け、各種交通サービスの円滑な乗り継ぎが出来るよう交通ネットワークの構築に向け施策を実施されることを期待します。 ・コミュニティバスの「おでかけレポーター」について更なる利用拡大の取組を期待します。 ・地域間幹線系統の坂下線が補助要件基準の15人を下回っているため、現状の把握に努めるとともに、関係者と連携して更なる対策を講じるようお願いいたします。	・学生の通学や地域住民の買い物利用のために、コミュニティバスの起点変更やルートの再編に向けて、地域住民や交通事業者と協議を行いました。 ・利用が減少している地区や新設した路線がある地区で無料乗車キャンペーンを実施し、併せて「おでかけレポーター」を配布することでコミュニティバスを周知したいと計画しています。 ・令和7年10月1日より、観光地である妻籠宿まで延伸し、利用者増を目指します。	・今後も各地区の実情に合わせ、地域住民の声を聞き、ルートの再編等柔軟に対応していきます。 ・地域への周知（地域広報への掲載やチラシの配布）を無料乗車キャンペーンやおでかけレポーターの配布を通じて、広く行っていきます。 ・新規の路線であるため、今後も利用状況を注視していきます。
前々回	・コミュニティバス無料定期券の配布について、その後の行動変容に繋がった等の効果検証をし、活用することを期待します。 ・落合地区コミュニティバスの再編について、ニーズの高い目的地や乗り継ぎの円滑につながることを期待します。 ・コミュニティバスの利用増に向けて、各地区の魅力も合わせてPRすることを期待します。	・今回も無料キャンペーンを行い、期間後の利用推移から、一定の新規利用に繋がったことを確認。合わせてアンケートを実施しました。 ・地域と協議し、ニーズの高い目的地を追加し、新たに路線バスに乗り継ぎできるようなバス停を設置しました。 ・当市のコミュニティバスのメインターゲットは地元住民であることを踏まえ、地域の魅力ではなく、「コミュニティバスを使ったおでかけの仕方（おでかけレポーター）」を合わせてPRしました。	・アンケート結果から、現在の満足度、ニーズを確認。今後の再編に活かします。 ・ニーズの目的地が好調に利用されていることを確認しています。今後も利用状況を注視しながら、目的地の要望があった際は柔軟に対応してまいります。 ・今後も各地域に合ったおでかけレポーターを提案していき、コミュニティバスの利用増を図ります。

※前回：令和7年3月27日、前々回：令和6年3月21日

6.計画・評価の推進体制

■ 地域公共交通計画・目標の評価スケジュール及び直近の公共交通会議開催状況

- 本計画及び目標の進捗状況は、次の評価スケジュールに基づき進めます。



【公共交通会議実施状況】

第1回 令和7年6月19日

議題1 北恵那バス馬籠線（大久手経由）の廃止及び廃止代替について【承認】

議題2 地域公共交通計画（別紙）の認定申請について【承認】

議題3 中津川市地域公共交通計画の一部改定について【承認】

第2回 令和7年7月16日

議題1 南部幹線坂下系統の路線新設について【承認】

議題2 中津川市民病院線の路線新設について【承認】

議題3 田立線の路線廃止について【承認】

議題4 くわちゃんバス坂下診療所線廃止について【承認】

第3回 令和8年1月13日

議題1 付知地区コミュニティバスの運行方法等の変更について【承認】

議題2 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について【承認】

議題3 中津川市公共交通会議設置要綱の改正及び財務規程の制定について【承認】

中 運 交 企 第 128 号
令 和 8 年 3 月 27 日

中津川市公共交通会議
会長 可知 誠 殿

中 部 運 輸 局 長
(公 印 省 略)

令和6・7年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】
中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL:052-952-8006

自治体・協議会名	中津川市公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・高校生への通学定期券の補助政策について、高校生を抱える家庭の経済的負担を軽減し、利用促進に繋がっていることを評価します。
- ・公共交通を活用した市内観光の推進に向け、インターネットによる経路検索の充実や、お出かけ情報の発信などが行われ、観光振興と公共交通の利用促進に努められたことを確認しました。

期待する取組

- ・通学の小学生や高校生が帰宅時に利用できる便を設定し、学生の安定的な利用に繋がっていることから、今後も地域や利用者の声に耳を傾け、利用者の要望に応じたダイヤ改正や路線編成を実施されることを期待します。
- ・地域内フィーダー系統において、1運行あたりの輸送量が2人未満の系統については、引き続き現状や課題を関係事業者等と共有するとともに、当該系統の必要性に応じて、利用促進や改善に向けた対策を実施されるよう期待します。